

奈良県指定文化財調査票

調査日	2020 年	10 月	24 日	記入者	東辻裕子	
調査者名	石井	亀田	神野	鈴木	中西	東辻
	前田					

文化財名	玉置山の枕状溶岩堆積地					
種類	<input type="checkbox"/> 史跡	<input type="checkbox"/> 名勝	<input checked="" type="checkbox"/> 天然記念物	<input type="checkbox"/> 有形民俗文化財	<input type="checkbox"/> その他 ()	
指定年月日	1997年(平成9)3月21日					
所在地	吉野郡十津川村山手谷397					
所有者 管理者	十津川村					
員数						
時代区分						
樹木の場合	(樹木名)			(樹齢)		
案内板の状況	奈良県教育委員会作成の説明板と十津川村が設置の石碑が設置されている。					
公開	常時公開					
保存状態	<input type="checkbox"/> 非常に良い	<input type="checkbox"/> 良い	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 悪い	<input type="checkbox"/> 非常に悪い	
	補足 ()					
当面の課題	玉置神社境内にあり、特に課題は見当たらない。					
今後の課題	人間が手を加えることができず、自然風化を見守るばかりである。					
その他 (由緒など)	枕状溶岩とは火山より噴出した玄武岩質マグマが水中で急速に冷却凝固したもの。俵状または丸太状をなした岩石が堆積しており、玉置山の名前の由来ともいわれる。岩石の個々の中心部に放射状の節理がある。海底から地殻変動などで地表1000mの山頂に現れたことから、日本列島や紀伊半島の形成を考える上で重要な資料である。また、植生も特異で植物学上からも学術的価値が高い。(県設置説明板などより抜粋)					
コメント	地質学上、形成時期が中生代白亜紀(1億4500万年～6600万年前)にさかのぼることが判明しており、2007年には日本の地質百選に選定されている。玉置山が海底から標高1000mまで隆起してできた山と聞くと紀伊山地が古代より山岳信仰の場となったのも納得である。					

奈良県指定文化財調査票(写真)

調査日	2020年	10月	24日	記入者	東辻裕子	
調査者名	石井	亀田	神野	鈴木	中西	東辻
	前田					

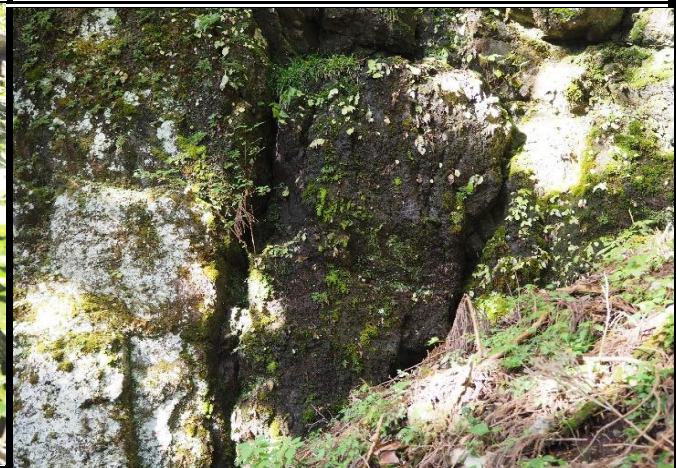
文化財名	玉置山の枕状溶岩堆積地
------	-------------

説明板(奈良県教育委員会設置)	石碑(十津川村設置)
-----------------	------------



枕状溶岩

枕状溶岩



地層の様子

玉置神社駐車場からの風景(標高約1000m)

